

福島第一原子力発電所 土壤中のPu分析結果

1. 測定結果

(単位: Bq/kg・乾土)

採取場所 ()は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Pu-238	Pu-239, Pu-240
グラウンド(西北西約500m)	10月10日	$(1.1 \pm 0.11) \times 10^{-1}$	$(4.5 \pm 0.70) \times 10^{-2}$
野鳥の森(西約500m)	日本分析	N.D. [$<1.2 \times 10^{-2}$]	$(1.2 \pm 0.37) \times 10^{-2}$
産廃処分場近傍(南南西約500m)	センター	$(1.8 \pm 0.50) \times 10^{-2}$	$(2.8 \pm 0.60) \times 10^{-2}$
国内の土壤		N.D. $\sim 1.5 \times 10^{-1}$	N.D. ~ 4.5

[]内は検出限界値を示す

: 文部科学省「環境放射線データベース」昭和53年～平成20年

: 「グラウンド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

2. 評価

10月10日に検出されたPu-238とPu-239, 240の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと同様なレベルである。しかし、これまでの結果から、今回の事故に由来する可能性が考えられる。

なお、3月21日以降にサンプリングした試料からPu-238およびPu-239, Pu-240が検出されている箇所があるが、値に大きな変化は見られていない。

以上